

第43回基本方針策定タスク 議事録

1. 日 時：平成 26 年 3 月 18(火) 9:30～12:00

2. 場 所：日本電気協会 4 階 B 会議室

3. 出席者：(順不同, 敬称略)

出席委員：越塚主査(NUSC 幹事/東京大学), 新田(NUSC 副委員長/日本原子力発電), 波木井(NUSC 委員/東京電力), 大山(原子燃料/東京電力), 渡邊(品質保証/原子力安全推進協会), 田中(安全設計/関西電力), 山田(構造/中部電力), 阿部(放射線管理/日本原子力発電), 中西(運転・保守/日本原子力発電), 荒川(日本電気協会)

(10 名)

代理出席者：戸村(耐震設計/日本原子力発電・白井代理)

(1 名)

事務局：鈴木, 大滝, 芝, 富澤, 田村, 井上(日本電気協会)

(6 名)

4. 配付資料

- 43-1 基本方針策定タスク委員名簿
- 43-2 第42回基本方針策定タスク議事録(案)
- 43-3-1 原子力規格委員会シンポジウムについて(案)
- 43-3-2 分科会委員構成の見直しについて(委員候補)
- 43-3-3 平成26年度活動計画(案)について
- 43-3-4 平成26年度各分野の規格策定活動について
- 43-4-1 原子力規格委員会の基本方針の見直しについて
- 43-4-2 JEAC, JEAG の考え方について
- 43-4-3 規格に引用している過去の規格の取扱について
- 43-4-4 平成 25 年度各分科会活動報告
- 43-4-5 「学協会規格整備計画 52 項目」の見直し結果(報告)

5. 議事

(1) 定足数確認

主査による代理出席者の承認後, 事務局より, 本日の出席委員は代理出席者を含めて 10 名であり, 会議開催条件の総数 2/3 以上を満たしていることが報告された。

(2) 前回議事録確認

事務局より, 資料 43-2 に基づき, 前回の第 42 回議事録(案)の説明があり, 正式な議事録とすることを確認した。

(3) 審議事項

1) 原子力規格委員会シンポジウムについて

事務局より, 資料 43-3-1 に基づき, 5 月 16 日開催予定の原子力規格委員会シンポジウム(案)についての説明があった。当日の登壇者等のアテンドは幹事をお願いすることとなった。コメント反映し, 原子力規格委員会に報告することとなった。また, 案内先にリストと, 案内文案を付けることとなった。

(主な意見)

- ・プログラム案については, 肩書だけでなく名前を記載すること。

→ 拝承

- ・案内先は, 自治体, 電力事業者(本部長クラス), メーカー(規格委員会の委員の出ているところ), 規制当局, 関係団体(学会, 協会等), 旧の分科会長等が考えられる。
- ・招待者は, 歴代の規格委員会の委員長, 副委員長クラスと考える。
- ・参加者は登録制か

→HP で登録してもらうことで進める。参加者は、事務局で取り纏める。

・HP は分りやすくしてほしい。

→了解

・マスコミはどの様に案内するのか。

→投げ込みと考えるが、時期的なこともあるので今後検討する。

・自治体に案内する意図は。

→火山、耐震等の規格を電気協会として策定していることをアピールする意味でも、自治体に案内する。

2) 分科会委員構成等について

事務局より、資料 43-3-2 に基づき、各分科会委員構成の見直し状についての説明があった。

各分科会とも今年度中に目標とする構成比率 1/3 以下を満足することが報告され、規格委員会に報告することとなった。

(主な意見)

特になし

3) 平成26年度活動計画(案)について

各分科会幹事より、資料 43-3-3 に基づき、平成 26 年度活動計画(案)について説明があり、コメントを反映することで、挙手による全員の賛成により承認され、規格委員会に諮ることとなった。

(主な意見)

【安全設計分科会】

・火災防護は福島対応に追加しないのか。(○を付けないのか)

→学協会整備計画(規格類協議会)の 83 項目で追加されたので、福島対応に火災も追加する。

・52 項目から 83 項目になったことを各幹事はきちんと理解してほしい。

・83 項目はすべて網羅(反映)しているか。

→本資料には内部溢水の検討項目を入れていないが、各分野の規格策定活動(資料 43-3-4)には内部溢水について検討すると記載している。具体的に動いているものを活動計画に入れていく。

・規格類協議会で重要度分類について DBA の中で議論があったが、重要度分類はどの様になっているのか。安全設計、耐震設計も含めて記載を追加してもらいたい。

→各分科会で重要度分類を記載することは難しいが、継続して検討する。JEAG4612「安全機能を有する電気・機械装置の重要度分類指針」にも記載している、記載は検討する。

・可搬設備の規格は作るのか。

→機械学会(資料 43-4-5「学協会規格整備計画の見直し」の P6/8 の番号 F-13)で策定することとなっている。

【構造分科会】

・ガスケット等シール材、ポリエチレンの仮称の検討会は、今後立ち上げる予定か

→26 年度中には立ち上げの準備をしたい。

・浸水防止設備技術指針は検討会で連携して進んでいるのか。

→設計からメンテナンスまで広く連携して進んでいる。

・津波等の前提条件によりどのくらい浸水(浸水深さ)するか変わってくるが

→設備を設置するにあつたての設計条件を規定している。津波は防潮堤で防ぐ(ドライサイトの設計である。)

・新たに福島対応となったものはどれか。

→浸水防止設備とガスケット関係、ポリエチレンが福島対応となっている。

・破壊靱性が福島対応となっているが。

→福島対応は新規規制基準対応等を含むので、福島対応に○が付いている。

【原子燃料分科会】

- ・ JEAC4212 が、福島対応となっているが、なぜか。
- 「学協会規格整備計画 52 項目」の見直し(資料 43-4-5) の原安委指針類の民間規格化の番号 I-13 に該当する。
- ・ ウォーターロッドの曲り対応を含めて検討するのか。
- 東電特有のもので他社には影響はないと思っている。
- ・ ○を付けている部分が分り難いので、JEAC4211 と JEAC4212 は分けて記載することで修正する。

【耐震設計分科会】

- ・ JEAG4625「火山影響評価技術指針」は福島対応であるのでは。また JEAG4625-2009 は 2014 の間違いでは。
- 修正する。
- ・ 中長期的には、竜巻等の外部事象の対応は。
- ・ 津波波源のガイドはどこに記載しているのか
- JEAG4601「耐震設計技術指針」の 4 章で津波の技術規程の関連も含めて記載の適正化している。波源設定は、こうでなければならないとの取り決めができていない。評価手法を記載している。津波の波源設定や評価は、土木学会の津波評価技術があり、それを使って適切な津波を評価するのが JEAG4601 である。
- ・ 民間規格を策定する上で、土木学会はガイドであり、規格としてクローズしないのではないのか。それを今後どのように説明していくのか。
- その意味で、取り決められないので地震動も含めてガイドとして取りまとめている。
- ・ 外部事象は不確定要素が大きくて、民間規格では規定できないので、規程(コード)としてまとめられないとしているのか。自信を持って説明できるのか。
- IAEA も決められないのでガイドになっている。
- ・ 不確実性も含めて考える必要がある
- 確率論で検討する必要がある。チェックする考え方を決める。このような観点でチェックして決める。まだ踏み込めないで、規則に照らして検討するがコードではなくガイドとしたい。

【品質保証分科会】

- ・ 今後の課題の、①② (IAEA, ISO の反映) の対応は、規制委員会の技術基準を変更しないと対応できないのでは。
- 規制の基準を変えてもらわないと、IAEA (GSR Part2) 等の世界の最新基準の迅速な取り込みができないので、規制との調和が必要である。学協会等を通じて調整する必要がある。

【放射線管理分科会】

- ・ 緊急時のモニタリング関係で、自治体との役割分担は
- 周辺モニタリングは自治体であり、災害指針では国が主体(国が緊急時モニタリングセンターを立ち上げ、自治体、原子力事業者が参加)として動く、発災事業者は、放出源モニタリングを行う。
- ・ オフサイトのモニタリングの取組みは災害対策指針で規定しているのか。
- 指針では考え方を規定しており、(具体的なモニタリングは)補足説明資料等のマニュアルで規定している。(現在検討中である。)

【運転・保守分科会】

- ・ 26 年度改定の内容は、昨年からの変更箇所なので赤字にする。

4) 平成26年度各分野の規格策定活動について

事務局より、資料 43-3-4 に基づき、平成 26 年度各分野の規格策定活動について説明があり、平成 26 年度活動報告（資料 43-3-3）のコメントの反映と誤字修正等を行うことで了承され、規格委員会に報告することとなった。

（主な意見）

・規格名称で **JEAC** が **JEAG** になっているものがあるので正しい名称に修正すること。

→拝承

・放射線管理分野の「原子力規制委員会が策定中の原子力災害対策指針と整合を図るべく対応していく。」は「原子力災害対策指針と整合を図る。」に修正する。

・耐震で技術規程（指針）との記載があるがこれで正しいか。

→同じ番号（名称）で **JEAG** と **JEAC** があることからこのように記載している。

・誤解の可能性があるので表現を見直すこと。（「規程および同指針」等の表現に修正）

・外部事象（外部火災、内部溢水、竜巻）の記載がないがどうするのか。内部溢水は、安全設計分野に記載があるが。

→国のガイドでは非常に詳細で、それを追記する規格を作るのか、それとも、補完する内容を入れたものを作るのかで異なる。上位規定の詳細化（前提条件）を作るのかの議論があり、他学会との調整が必要。

・規格類協議会では議論を行っているが、タスク（電気協会）での議論がなされていない。

・外部火災、竜巻は、議論の枠組みが決まっていないので、別枠で書く必要があるのではないか

・内容の近い分科会で検討する案もあるし、新しい分科会を立ち上げて検討する方法もあるが。

→新しい分科会を立ち上げることがいいのでは

・その他で新たな分野（分科会）も視野に入れて記載を追加しては。

→その方向で追記する。

(4) 報告事項

1) 原子力規格委員会の基本方針の見直しについて

事務局より、資料 43-4-1 に基づき、原子力規格委員会の基本方針の見直しについての報告があった。

今回の修正は、委員長のコメントを反映し見直したものであり、次回原子力規格委員会には中間報告し、6 月の規格委員会に上程する方向で了承された。

（主な意見）

特になし

2) **JEAC**、**JEAG** の考え方について

事務局より、資料 43-4-2 に基づき、**JEAC**、**JEAG** の考え方について中間報告があった。コメントを反映することです了承され、規格委員会に報告することとなった。

（主な意見）

・前回 **WG** では従来の考え方で行こうことであったが、本資料では、エンドースの対象と考えると強く要求事項で記載することで **JEAC** にする必要があるということか。**JEAG** でエンドースされたものもあるのか。

→**JEAG** でエンドースされたものはある。次は **JEAC** にしてほしいと言われている。（旧保安院）

→国の技術基準は細かく規定されており、**JEAG4121** は、**JEAC4111** の要求事項とその要求事項の例示を記載しており、国からは **JEAG4121** もエンドースしたいとの話もある。**JEAG4121** をエンドースすることに価値があると言われている。その意味からは、「shall」だからエンドースの対象と限定されるわけではないと考える。

・こちらでエンドースを決められないので、その点を丁寧に記載してほしい。

・規格委員会にはこの点を議論していただくことで報告する。

3)規格に引用している過去の規格の取扱について

事務局より、資料 43-4-3 に基づき、規格に引用している過去の規格の取扱について報告があった。

(主な意見)

- ・過去分の資料については、提案から長く時間を要しているが、何時までも尻込みしているように見える。前向きに公開できるように検討してほしい。それでないのであれば、分科会（単独）としては別の方策（電気協会とは別の HP を立てる等）を考えることもある。早く結論を出してほしい。

→拝承

4)平成 25 年度各分科会活動報告

本資料については、コメントがあれば、事務局に連絡してもらうことで、配布のみで説明は省略した。

(5)その他

特になし

以上